

青森県立郷土館の小・中学校を対象とした移動博物館についてⅡ

佐藤 琢¹⁾

A Report of the Delivery Lecture for Elementary School and Junior High School at the Aomori Prefectural Museum Ⅱ

Taku SATO

key words:教育普及、移動博物館、出前授業、博学連携

1 はじめに

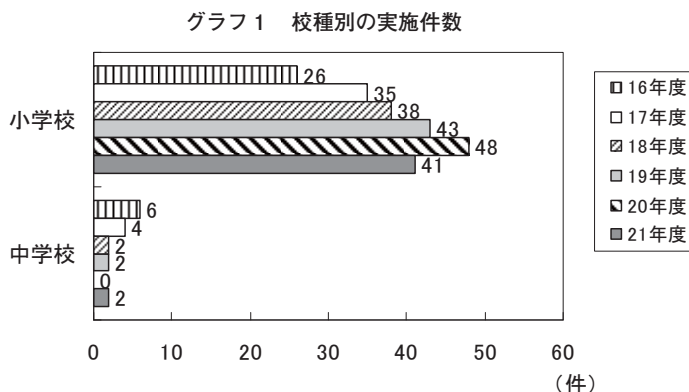
平成15年から始まった青森県立郷土館の移動博物館（出前授業）は、平成16年に小学校の教員経験者が専任担当者となったことで従来の内容から大きく変化した。従来の移動博物館との違いは、資料や解説内容の適切な提供だけでなく、教員の負担が少ない手続きや打ち合わせの方法、教員と二人三脚で授業を作っていく点などに大きく見られ、小学校の現場での経験やカリキュラムへの知識を生かして利用者の立場に立って取り組むことによって生じている。平成17年からは事業のさらなる改善を目的としたアンケートを実施しており、平成21年に5年を経過し、渡辺（2008）からも2年が経過した。ここでは、5年間のアンケートの結果から、これまでに行ってきた改善の方向性の是非を検証したい。

2 実施件数の推移

平成16年度から平成21年度までの年度ごとの推移を比較し、紹介する。

(1) 校種別の実施件数

出前授業は小学校又は中学校を主な対象として実施している。グラフ1は校種ごとの件数を比較したものである。



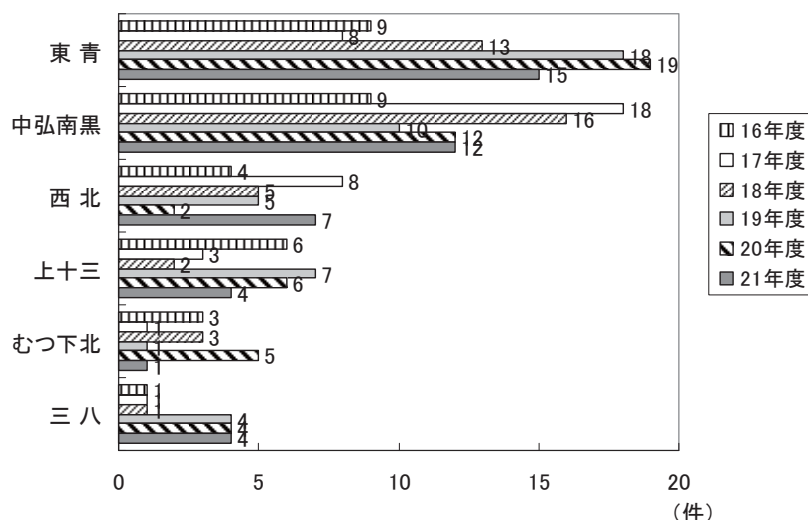
グラフ1より、出前授業のほとんどが小学校で実施されており、中学校の利用は少ない上に年度ごとの変化がほとんど無いことがわかる。小学校の利用件数は21年度で減少しているが、インフルエンザの流行による影響が原因と考えられる。また、公用車の利用は出前授業にとって必須であるが、特別展などの資料借用や資料返却の為に公用車が使用できない時期があったことも影響している。

(2) 地域別の実施件数

グラフ2は青森県内の地域ごとの利用件数を年度ごとに比較したものである。東青地区、中弘南黒地区での利用が特に多く、三八地区、むつ下北地区での利用が少ないことが分かる。これは、青森県立郷土館の所在地が青森市であることから、距離的な問題であると考えられる。渡辺（2008）によれば、小学校教育研究会等でのPR活動によって翌年度その地域での実施件数が増加している。渡辺（2008）の調査以降、20年度には弘前市で小学校教育研究会社会科部会の県大会で、21年度にはむつ市で下北教育事務所主催の学校支援ボランティア活動見本市でPR活動を行っている。21年度では、全国的なインフルエンザの流行もありPRの効果が感じられなかった。22年度のむつ下北地区での件数の変化に注目したい。

1) 青森県立郷土館 研究主査（〒030-0802 青森市本町2-8-14）

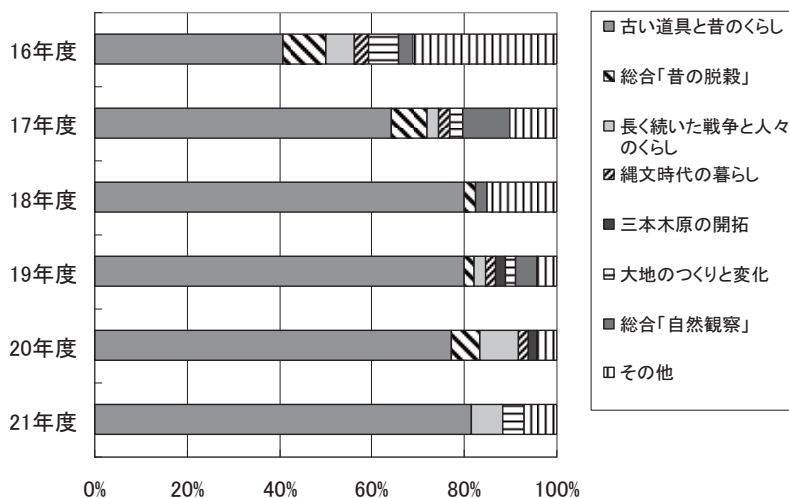
グラフ2 地域別の実施件数



(3) テーマ別実施件数の割合

グラフ3はそれぞれの年度に行った移動博物館の中でそれぞれのテーマが占める割合を比較したものである。特に18年度以降では「古い道具と昔の暮らし」の単元での出前授業の実施が8割を占めている。これは、出前授業の事業の進め方が固まってきた頃と一致しており、指導要領に沿って授業の一環として出前授業を行うという方針が影響していると考えられる。実施した学校の教員との会話の中で、「本物の資料を見ることが難しく、触ることはもっと難しい」、「本物を見たり、体験しないと子供たちの理解が不十分になったり、知識が定着しない」という話を必ず聞き、学校もこの単元の実施を強く要望しているのが分かる。

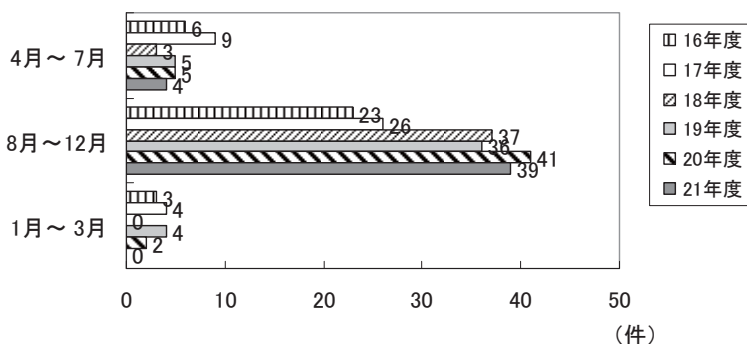
グラフ3 テーマ別実施件数の割合



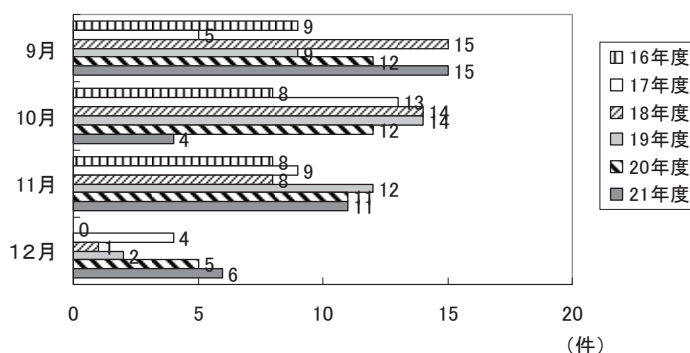
(4) 時期別実施件数

グラフ4は時期別の実施件数の推移を比較したものである。期間のまとめ方は学校の3学期制に合わせたもので、4月～7月は1学期、8月～12月は2学期、1月～3月は3学期にあたる。グラフより、出前授業の実施は大部分が2学期であることがわかる。さらに2学期の中での9月～12月までの月ごとの実施件数をグラフ5に示す。1ヶ月あたりの最大の件数は15件で、9月と10月の実施が多く、11、12月になるに従って件数は減少している。実施件数が2学期、特に9月と10月に集中しているのは(3)で示したテーマが関係している。最も利用率の高い「古い道具と昔の暮らし」は2学期の最初に取り上げる単元であるから、出前授業を指導計画に組み込むことを考えると、2学期、特に9月に実施日が集中することになる。10月以降は9月の予約が取れなかった学校が順番に日程を確保していき、12月になると実際に学習した時期から大きくずれるために実施をあきらめる場合が多い。

グラフ4 時期別の実施件数



グラフ5 9月～12月の月ごとの実施件数



3 アンケート調査

平成17年度から平成21年度の間にとったアンケートの結果を紹介する。なお、調査目的や対象、方法については渡辺（2008）と同様である。調査時期は17年から21年、回収結果は新たに20年度44校、21年度37校である。

設問は以下の通りである。問1～3は選択肢の中から回答を選び（複数回答可）、問4～9は5段階で評価する（改善を要するものを1、適切であるものを5とする）問題である。

- 問1 どのようにして移動博物館を知りましたか？
- 問2 今回の移動博物館の利用目的や授業のねらいは何でしたか？
- 問3 今後、移動博物館の実施に望むことは何ですか？
- 問4 当館との連絡調整（打ち合わせ）はスムーズに進みましたか？
- 問5 当館職員の解説内容は適切でしたか？
- 問6 資料の数や内容は適切でしたか？
- 問7 当館職員の児童生徒に対する接し方や話し方は適切でしたか？
- 問8 授業のねらいは達成されましたか？
- 問9 今回の移動博物館の総合評価は？

4 アンケート結果

得られた回答をグラフ化した結果、以下ようになった。

問1 どのようにして移動博物館を知りましたか？

結果をグラフ6に示す。「以前から知っていた」「同僚の先生からの紹介」「初・5・10年次研修」がほとんどであり、時間とともに次第にその傾向が強くなっている。このことから、主に口コミによって伝わっているのが分かる。また、毎年行っている学校もあり、その場合は次の学年に申し送り事項として内容が伝わっているようだ。

問2 今回の移動博物館の利用目的や授業のねらいは何でしたか？

結果をグラフ7に示す。「実物資料を見せたい」がどの年度でも最も多く、学校現場では実物資料が手に入らずに苦慮している様子がうかがえる。他には、「興味関心を高める」「知識理解を深める」「体験活動の充実」がどの年度でも多いのが分かる。児童に学習内容を定着させたり考えを深めさせるために、実物に触れることや体験活動を行うことは大きな効果がある。しかし、「古い道具と昔のくらし」の単元で使われる道具については、実際に手に入れようとしてもほとんど残っていないのが現実であり、特に都市部では新たに手に入れるのは不可能に近い。これが

「古い道具と昔の暮らし」の単元での利用が多く、移動博物館・出前授業が学校現場に強く求められている理由であり、回答にもそれが表れている。

問3 今後、移動博物館の実施に望むことは何ですか？

結果をグラフ8に示す。問2でも語ったように、体験に関わる要望が多いのが分かる。資料の種類については十分であるとの声も聞くが、どの年度でも要望が無くならないのは一部の資料を除いて1つの資料の点数が少ないからと考えられる。1つの資料がそれぞれ6点ほどあればグループごとに1つ資料を扱うことができ、今とは違った授業形態を取ったり、内容を深めることができる。しかし、すでに手に入れるのが難しい現状、これ以上点数を増やすのは難しい。

問4 当館との連絡調整（打ち合わせ）はスムーズに進みましたか？

問5 当館職員の解説内容は適切でしたか？

問6 資料の数や内容は適切でしたか？

問7 当館職員の児童生徒に対する接し方や話し方は適切でしたか？

問8 授業のねらいは達成されましたか？

問9 今回の移動博物館の総合評価は？

問4～9の結果をそれぞれグラフ9～14に示す。グラフは改善を要するものを1、適切であるものを5として評価し、回答数における割合で表したものである。どのグラフも5または4の割合が大きく、次第に低い評価が減っているのがわかる。これらの結果から、現在の出前授業についてはおおむね満足されていると考えられる。

5 考察

移動博物館・出前授業を利用する際の7割から8割が「古い道具と昔の暮らし」の単元での利用である。この単元は2学期に設定されているため、2学期にあたる8月～12月の利用が最も多いという結果になっている。更に2学期の月ごとの利用件数を見ると、一ヶ月で15件が最高であり、これ以上の件数は難しいことが分かる。従って、現状のままであれば、これ以上に件数が増加する可能性は低く、17年度以降件数は大きく変化していないととれ、年間50件程度で限界となる。従ってこれ以上の利用増加を考えるには、件数の少ない1学期と3学期の利用件数を増やすしかない。そのためには1・3学期の単元の資料とプログラム作りが必要である。ただし、1学期は学級がまとまり教員に余裕が出る6月以降でなければ利用が難しく、3学期は天候を考慮して遠慮したり、寒さや風邪、インフルエンザなどの影響で学年でまとまって実施することが難しかったり、期間が短いのでカリキュラムに余裕がないなどの理由で利用率の増加は難しいのではないかと考えられる。以上から1学期（後半）の利用を呼びかけることが必要であろう。ただし、1学期の利用が増えても80件程度が上限と考えられる。

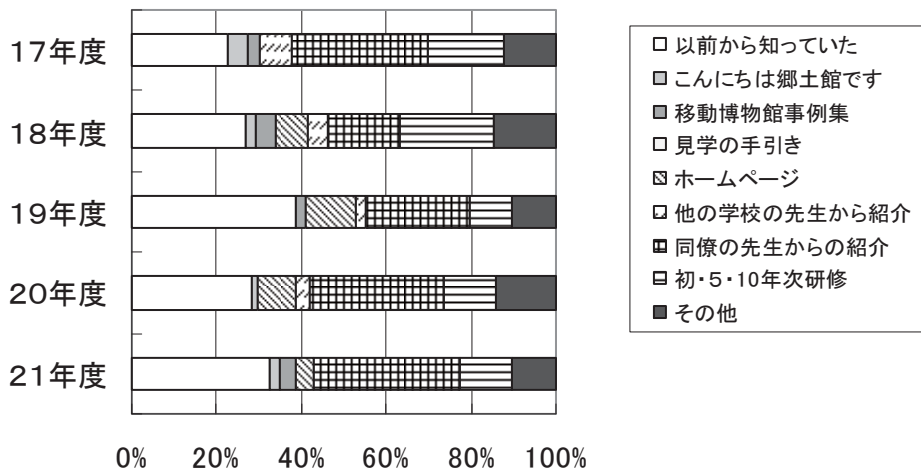
アンケート結果に見られるように現時点では高い満足度を得られており、低い評価がほとんど見られなくなったことを考えると、今まで行ってきた改善の方向性は間違っていないと考えられる。学校の教員は多忙であり、どれだけ効果があるものであっても手続き等が煩雑であればあきらめてしまうことも少なくない。また、内容についても、授業での指導内容と関連性が薄いイベント的なものはほとんど必要とされていない。特に初めて実施した学校ではあまり期待されていないと感じることが多く、授業との関連性が強いことが分かるととても感動されることがある。これからも、「手続きを簡素化する」「内容は指導要領に従い、授業との関連性をもたせる」という方針を続けていきたい。

広報についてはほとんどが口コミであり、体験したことのある人が転勤しても使い続けたり、同じ学校が毎年実施する傾向が強い。また、その結果、利用する単元も「古い道具と昔の暮らし」に偏り、他の単元で実施できることを知らないことも多い。これ以上の件数増加が難しい状況にはあるが、より広く県内での利用を進めていくためには広報の方法を考える必要がある。現在行っている初・5・10年次研修でのPRは、21年度もそこで始めて実施した学校が数件あることから地道に効果があるため、このまま継続していきたい。また、郷土館ホームページで知った、調べたという声も多く聞くため、指導案や解説内容を記載するなど詳細な情報を提供することで、活用を進めていきたい。

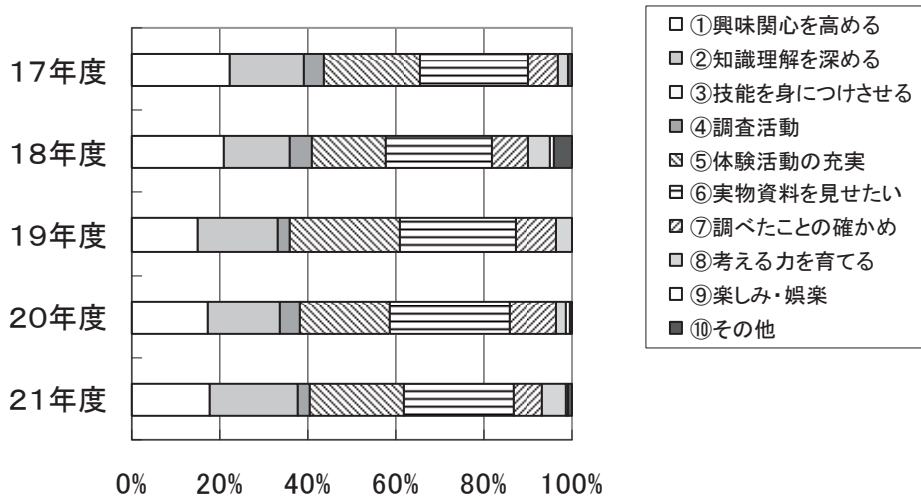
6 おわりに

5年間アンケートを続けてきたが、ほぼ年度ごとの変化が見られない状況になってきた。出前授業の完成度が高まった反面、今のアンケートのままでは学校側の要求を捕らえきれなくなってきたとも考えられる。来年度以降はアンケートの内容も見直し、今の事業を更に発展させるよう努力していきたい。

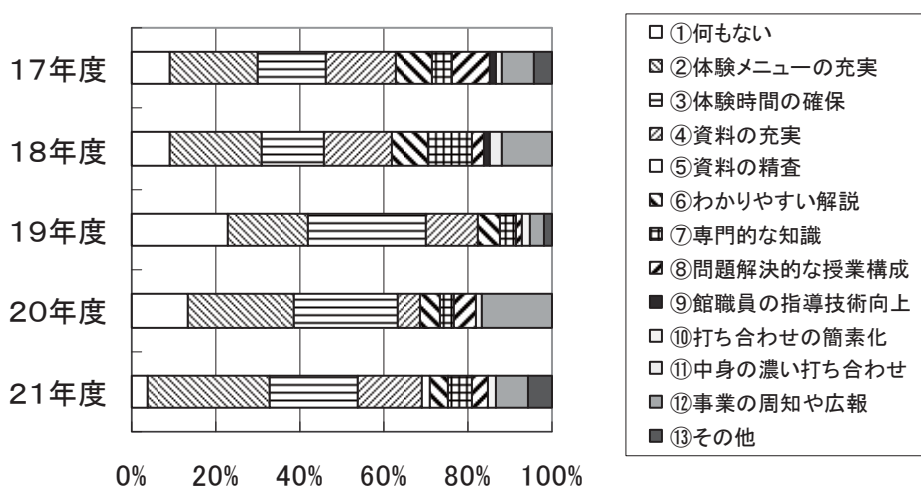
グラフ6 どのようにして移動博物館を知ったか



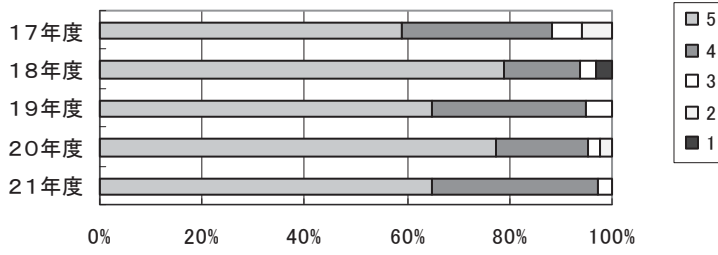
グラフ7 移動博物館の利用目的や授業のねらいは何



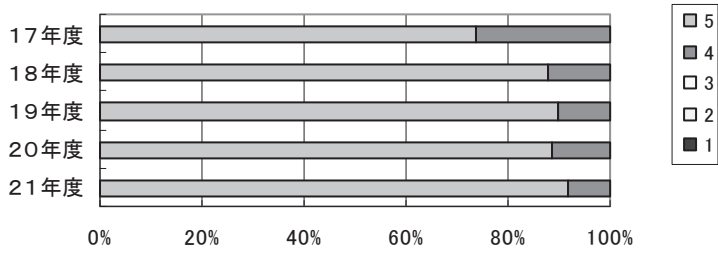
グラフ8 今後、移動博物館に望むことは何



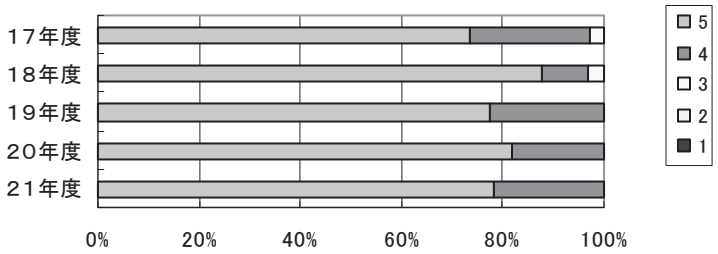
グラフ9 連絡調整



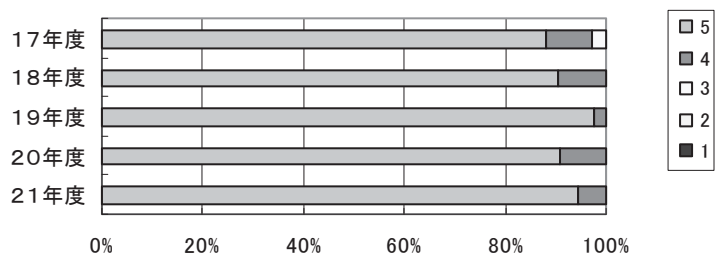
グラフ10 解説内容



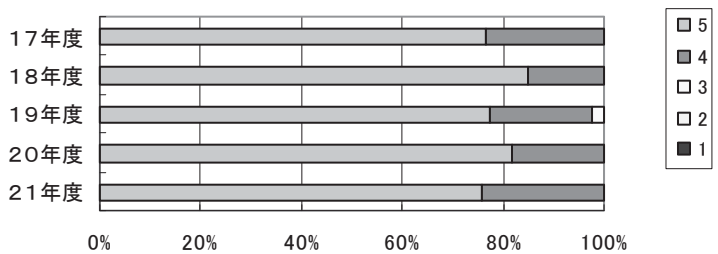
グラフ11 資料の数や内容



グラフ12 話し方や接し方



グラフ13 ねらいの達成度



グラフ14 総合評価

